

## 16 - 19世紀、伝統都市の分節的な社会 = 空間構造に関する 比較類型論的研究

吉田 伸之 (東京大学・大学院人文社会系研究科・文学部・教授)

### 【研究の概要等】

この研究の目的は、16 - 19世紀における伝統都市の歴史的な特質を、江戸（東京）・ロンドン・パリ・ニューヨークなど、巨大化を遂げた諸都市を素材とし、比較史的に把握しようとするものである。特に、伝統都市の基盤となる社会や空間のあり方が分節的性格を持つことに着目し、その具体的なあり方を精微に明らかにすることを試みる。

研究の実施にあたって、「分節構造と社会的結合」、「現代都市類型の創出」、「都市の周縁」、「都市民衆世界と近代」、「伝統都市の比較類型」という5つを共通論題として設定した。また、江戸（東京）を中心に、パリ・ロンドン・ニューヨーク・天津などに関する基礎史料の収集を行い、それらの成果を広く学界に共有するようにつとめる。

比較類型論的把握については、毎年海外の都市史研究者を一名招聘し、ラウンドテーブルなどにおいて議論を深める。さらにメンバーによる基礎研究の成果は毎秋のシンポジウムや研究例会での報告を経て、『年報都市史研究』などにおいて随時公表してゆく。

### 【当該研究から期待される成果】

本研究によって、第一に、これまでの16 - 19世紀都市史に関する成果と課題が総括され、新たな研究の指針が呈示されうる。特に、日本近世都市史と建築史の長期にわたる共同研究の成果である、社会 = 空間構造論や分節構造論という都市史の方法が、他地域の伝統都市や近現代都市社会を研究する上でどのように有効か、あるいは限界を持つかを検討しうる。

第二に、伝統都市の分節構造に関する基本史料を包括的に把握し、情報を共有するための条件が一段と整備されることになる。

第三に、これらをふまえて伝統都市の社会構造に関する研究が進展し、海外にも及ぶ研究者のネットワークが格段にひろがることとなる。

### 【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- ・吉田 伸之 『巨大城下町江戸の分節構造』山川出版社、1999年
- ・吉田 伸之 『身分的周縁と社会 = 文化構造』部落問題研究所、2003年

【研究期間】 平成18年度 - 22年度

【研究経費】 18,100,000 円

【ホームページアドレス】 (2006年秋に開設予定)